

平成29年度 自己評価・学校関係者評価

岐阜県立関特別支援学校

学校番号112

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>創意ある教育実践を通して豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。</p>	
2 評価する領域・分野	<p>学習活動・家庭や地域等との連携</p>	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>○「保護者対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方針に対する共感度、信頼度は81%～91%と大変高い。家庭との連携についても昨年同様高く評価されており、特に「学校は…参観等をする機会を設け教育活動について積極的に公開している」という項目については100%肯定的であった。自校の教育活動に対する自己評価等の伝達については、あまり改善できていなかった。 ・教職員の人柄や教育に対する姿勢の項目は、80%～93%が肯定的評価で、高い評価を得ている。 ・「…パソコンや情報通信等の情報手段能力の向上…」の項目は肯定的評価が下降し、「わからない」が上昇した。昨年はPTAによるICTの活動の発表もあり、全体に意識が高かったことが原因であると思われるが、今年度は学習支援部の中に情報部を配置し、ICT活用の充実を図ってきただけに、保護者への情報提供を工夫していく必要がある。 ・「施設等の開放、開かれた学校づくり」では87%の肯定的評価を受け、「センター的機能」についても83%の支持を得た。積極的な広報活動が実を結んでいると感じた。 <p>○「生徒」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象となる生徒が非常に少ない現状である。生徒と教職員の信頼関係については、昨年同様1名の否定的な意見があったが、8項目あった否定的な項目が4項目に減少した。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自校の教育活動や評価等をホームページや学校だより等を利用してより積極的に発信すると同時に、地域の学校や自治会と連携した取組を工夫する。 ・クラスや学年の枠を超えた活動や、他学部や他校との交流・連携を積極的に進める。 ・授業でのICTの積極的活用を促し、PTA活動を通して汎用を図る。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職や分掌長を中心に、保護者だけでなく地域の学校や自治会にも、様々なアンケート結果や行事等での児童生徒の様子、学校が積極的に取り組んでいること等を、ホームページやメール配信、学校だよりや学部・学級通信等で積極的に発信していく。 ・学部や類型を超えて、一人一人の児童生徒の実態に応じた学習方法を考え、積極的かつ柔軟に対応する。 ・学習支援部を中心に、授業等でのICTの活用方法を提案し、実践する。 	
6 目標の達成に必要な具体的な課題	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	

<p>(1) 校内外での教育活動を事前・事後に保護者や地域へ発信する。</p> <p>(2) 児童生徒の障がい特性や学習する内容に応じた柔軟なグループ編成をする。</p> <p>(3) ICTの様々な活用方法や事例を職員や保護者に広める。</p>	<p>(1) 活動への参加状況と活動ごとの反省やアンケートの結果</p> <p>(2) 学習中や学習後の児童生徒の様子、及びアンケートや職員反省の結果</p> <p>(3) 児童生徒のICTの活用状況と職員や保護者の反省及びアンケート結果</p>	
<p>8 取組状況・実践内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学級、学部や分掌から通信や案内等を発信すると同時に、学校だより等でも積極的に情報発信に努めた。 学年を超えた多様な学習グループ編成や児童生徒の実態に応じた学習グループ編成ができた。 7月「保護者・生徒対象アンケート」、11月の授業参観週間に「保護者対象の授業アンケート」を実施した。 他校とのたくさんの交流学习や共同学習に意欲的に取り組むことができた。 学習支援部を中心にICTの環境整備や活用に取り組み、汎用を図った。 	<p>9 評価観点</p> <p>①校内外での教育活動を保護者や地域に積極的に発信できたか。</p> <p>②児童生徒の障がい特性や学習する内容に応じた柔軟なグループ編成ができたか。</p> <p>③学校の教育活動への保護者の参加状況や活動への理解・協力は得られたか。</p> <p>③授業の中で積極的なコミュニケーションをとることができたか。</p> <p>②ICTを活用した授業等を全体に広めることができたか。</p>	<p>10 評価</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>11 成果課題</p>	<p>○病弱の児童生徒を視野に入れてABC類型の「個別の指導計画」の見直しを図った。</p> <p>○クラスや学年の枠を超えた活動や他学部や他校との交流・連携を積極的に図ることができた。中濃特別支援学校分教室との連携も広げることができた。</p> <p>○学校だよりや各学部・分掌からの通信において、内容の充実を図った。</p> <p>▲病弱の児童生徒への対応が適切にできないことがあった。</p> <p>▲ICT活用の汎用が不十分であった。</p>	<p>総合評価</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> 病弱の児童生徒に対する研修を深め、みんなで支援できる体制を整える。 情報担当の職員を中心に個に応じたICTの活用法を積極的に提案し、授業等での活用を広げるとともに、その実践を様々な方法で公表していく。 		

II 学校関係者評価

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 病弱の支援の難しさを経験している。とてもたいへんだと思う。(対応についての)情報を蓄積して、職員間で共有してもらえると有難い。 外部との交流を活発に行っているのはすばらしい。しかし、まだやれる余地があるのではないか。自治会としてもお手伝いしたい気持ちはあるので、地域を活用してほしい。 ICTの活用については個人的な知識・技能の差があると思うが、ICTの研修会を行い、知識の共有化ができるとよい。やり方が分かってくると面白くなってくる。
--

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>創意ある教育実践を通して豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。</p>	
2 評価する領域・分野	<p>安心・安全な学校生活</p>	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>○「保護者対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「医療機関との連携による健康管理」については、93%の肯定的評価を得ている。「緊急時の対応について」は87%の肯定的評価を得た。「いじめ」や「体罰」防止の取組については、まだ認知度が低かった。 <p>○「生徒」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安全への配慮」については昨年と同様100%肯定的であり、いじめや体罰の認知についても昨年同様0%である。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康・安全に配慮した教育環境のより一層の充実 ・災害や傷病事故等の危機管理体制の確立 ・安全・安心な心の居場所づくり 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p><保健安全部を中心とした施設・設備の管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊具や施設・設備の定期的な点検と修繕の実施 ・環境の日や、日頃からの定期的な清掃活動 <p><保健安全部・生徒支援部を中心とした緊急時への対応組織づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットやアクシデントの迅速な対応と報告や再発防止 ・緊急災害時の対応として「命を守る訓練」「引き渡し訓練」の実施や「緊急サポートカード」校内設置、「非常用食料・水・等」の備蓄品の確保 ・非常変災時における対応組織・基準づくり ・不審者侵入時の対応訓練の実施・寄宿舍での対応づくり <p><保健室を中心とした医療的ケア、医療機関との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教諭と養護教諭、看護講師との連携や医療的ケア検討委員会の実施 ・児童生徒の傷病事故を想定した緊急対応訓練の実施 ・職員・保護者への専門家による研修の実施 <p><生徒支援部を中心とした安心・安全な環境づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや体罰のない温かい居場所のある学校づくり 	
6 目標の達成に必要な具体的な課題	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 毎月の安全点検日における、全職員による施設・設備の点検の実施 (2) 様々な状況を想定した「命を守る訓練」、緊急対応訓練等の実施 (3) 個に応じた医療的ケアの周知徹底と事故防止のためのシステムづくり (4) 環境の日や、日頃からの定期的な清掃活動 (5) 関特ニコニコキャンペーン活動の充実とクラスを超えた交流活動 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 全職員による安全点検と点検内容の妥当性。点検後の適切な処置、処理の実施状況 (2) 事前・事後の職員による反省やアンケートの結果 (3) 事故の発生状況と保護者による意見やアンケートの結果 (4) 職員や保護者による意見やアンケートの結果 (5) 児童生徒や保護者による反省やアンケートの結果 	

8 取組状況・実践内容	9 評価観点	10 評価																				
<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、全職員により校舎・設備の安全点検や清掃を行った。 ・学校全体で年3回毎回想定を変え、臨機応変な対応を必要とする「命を守る訓練」を実施した。寄宿舎においても時間帯や状況を毎回変えて「命を守る訓練」を実施した。 ・不審者に対して生徒の安全を第一に配慮した環境整備や侵入時の対応訓練に取り組んだ。 ・専門医や作業療法士を講師として職員の研修を実施した。 ・ヒヤリハットやアクシデントの事例と対応策をグループウェア等を利用して公表した。 ・児童生徒会を中心に「関特ニコニコキャンペーン」を実施し、その活用を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 「安全配慮義務」の意識をもって取り組めたか。 ② 予想される危険だけでなく想定外の危機に対して、職員が高い危機意識を持ち、職員間で共通理解を図ることができたか。 ③ 訓練が、生徒の安全を確保できるものになっていたか。 ④ 研修が、職員の専門性を高めることができたか。 ⑤ 同様な事故が再発しなかったか。 ⑥ 児童生徒の明るい表情や自発的な動きが見られたか。 	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
11 成果 課題	<p>○毎回違った場面を想定した緊急体制での訓練を繰り返し実施し、緊急時の適切な対応を考え、緊急体制の確立について再検討することができた。中濃特別支援学校分教室とも連携を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ▲寄宿舎における不審者侵入時の対応については改善の余地がある。 ○様々な交流活動や関特ニコニコキャンペーン等の生徒会活動を通して、いじめのない温かい人間関係を育むことができた。 ○非常食の試食会や給食に軟飯を導入するなど、「食」の安全に改善を図ることができた。 ○職員が様々な専門家から研修できる機会を設け、児童生徒の健康面について連携しながら取り組むことができた。 ・ ▲ヒヤリハット・アクシデントの報告や全体への周知が遅くなるがあった。 	<p>総合評価</p> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> </table>	A	B	C	D																
A	B	C	D																			
<p>12 来年度に向けての改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時対応マニュアルの見直しと、訓練が形式化しないように危機意識が高まるような工夫をする。 ・ ヒヤリハット・アクシデントの迅速な報告と全体周知を徹底する体制を作る。 ・ 児童生徒会活動や交流活動さらには寄宿舎の活動等をさらに発展させて、温かい居場所づくりに努める。 																						

II 学校関係者評価

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学校では小学部から高等部まであり、長い生徒には12年間、育ちを見守る支援ができる。(同じ学校内に) 知っている先生がいるということは子どもたちの心の安定につながっている。今後、複数の教育課程を合わせてグループをつくるような時でも、子どもにとっての環境の安定を図ることが大切だと思う。 ・ ヒヤリハット・アクシデント事例については内容に興味があるし、職場での参考にしたい。情報発信していただけるとよい。

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>創意ある教育実践を通して豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。</p>	
2 評価する領域・分野	キャリア教育	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「保護者対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路情報の提供」については91%の保護者が肯定的評価をしており、昨年度より上昇した。「進路・関係機関との連携」については80%、「個性や能力を伸ばし、社会自立、職業自立を図る進路指導」においては83%、「将来を見通した支援」では83%の肯定的評価を得ている。 <p>「生徒」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校の先生方は、進路指導について積極的に取り組んでいる。」については100%の生徒から良好と評価を得ている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や関係機関等と連携した進路指導体制の充実 ・「個別の教育支援計画」を活用した適切な指導の推進 ・卒業生を含めた、社会的自立、職業的自立に向けての計画的な指導 ・掲示板や通信等を通じた進路情報の積極的な提供 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育充実のために、小学部から高等部までを含む学部間の連携の充実に努める。 ・学習支援部を中心に全校研究を行い、専門家の助言も取り入れながら、小学部・中学部・高等部の連携を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な課題	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 進学指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学、短大見学、オープンキャンパス参加等 ・模擬試験、補習、面接指導、小論文指導 <p>(2) 就職指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補習（一般教養、作文）、面接指導、模擬試験、 ・地域実習、進路体験実習、卒業生支援 <p>(3) 市町村の担当機関や進路先と連携した支援会議の実施</p> <p>(4) 小学部段階からのキャリア発達支援の充実</p> <p>(5) 全校研究を通しての、各学部の取組の連携</p>	<p>(1) 進路志望の具体的達成状況</p> <p>(2) 保護者と学校との連携</p> <p>(3) 保護者・生徒と、市町村・進路先との連携状況</p> <p>(4) 各部間における情報交換及び連携の状況</p> <p>(5) 研究発表における専門家の評価と指導・助言</p>	
8 取組状況・実践内容	9 評価観点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・進路通信「STEP UP」の充実に努め、有益な情報をわかりやすく伝えることに努め、様々な事業に保護者の参加を呼びかけた。 ・生徒一人一人の実態に応じて、保護者や関係機関と連携しながら、様々な事業所で進路体験実習を行った。 	<p>①保護者の参加状況や参加態度はどうであったか。</p> <p>②就職・進路志望先が生徒個々の実態に合ったものであったか。</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・一般教養や作文等の補習指導、面接指導、模擬試験等を行うなど、個別の進路指導を行った。 ・関連機関等の協力を得て、支援会議の充実に努めた。 ・年間を通じて、学習支援部を中心に学部間の連携を図りながら、児童生徒の将来を見通した支援のあり方を研究した。 	<p>③個別の指導は進路決定に貢献したか。</p> <p>③支援会議は、内容のあるものであったか。</p> <p>④研究の成果が、各自の実践にどれだけ反映されたか。</p>	<p><input type="checkbox"/>A B C D</p> <p><input type="checkbox"/>A B C D</p> <p>A <input type="checkbox"/>B C D</p>
<p>11 成果</p> <p>○進路通信「STEP UP」の充実に図り、小学部段階から保護者に積極的な進路情報を提供することができた。また、高等部の地域実習で、小学部、中学部の保護者にも参加してもらうことができた。</p> <p>・ ○外部の関係諸機関との定期的な連携会議や相談会等に参加し、情報収集や情報提供を積極的に行うことができた。</p> <p>○障がい者就業・生活支援センター・ハローワーク等と連携し、生徒一人一人に適した進路選択を進めていくことができた。</p> <p>○小学部、中学部、高等部合同の授業を行うなど、児童生徒が将来を意識できるような指導・支援を行うことができた。</p> <p>▲病弱（不登校）の関係機関との連携が少なかった。</p> <p>▲卒業生への追支援が計画的に実施できなかった。</p>	<p>総合評価</p> <p><input type="checkbox"/>A B C D</p>	
<p>1 2 来年度に向けての改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病弱の関係機関と連携して支援環境を整える。 ・小学部・中学部・高等部を通じた一連のキャリア教育の構築を図る。 ・卒業生の動向の記録を整理し、計画的な追支援を図る。 		

II 学校関係者評価

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病弱の支援の難しさを経験している。とてもたいへんだと思う。(対応についての) 情報を蓄積して、職員間で共有してもらえると有難い。 ・企業の求人ニーズが劇的に変わっている。法定雇用率が2.2%に引き上げられたり、ペナルティの強化等が背景にある。まずは、企業を見学したり、実習をしたりしてみるのが大切である。 ・卒業生の追支援を3年と言われたが、3年だけでなく、ずっと見てほしい。卒業生にとってここが母校であり、何かあったらいつでも来られるようにしてほしい。
--